

しっかり確認して、安全運転を！

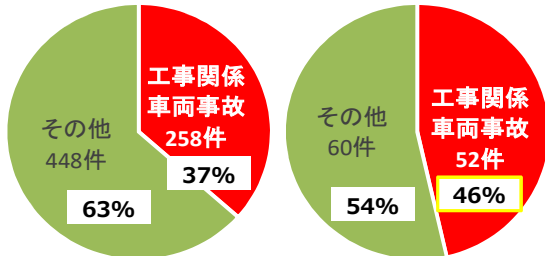
～ 工事関係車両の事故が増えています ～

全事故件数に占める工事関係車両事故の割合

H27～R1年度合計

R2年度

※12月末時点値



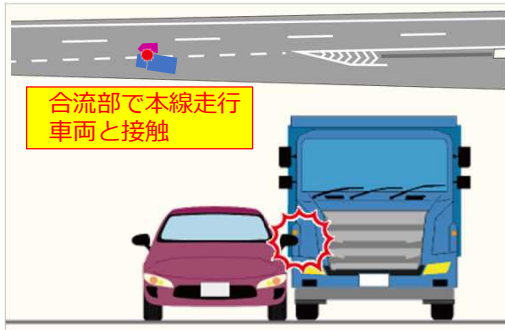
※もらい事故を除く

ダンプトラックや連絡車等の工事関係車両による事故は過去5年間において、全事故の37%となっておりますが、令和2年度は12月末時点で46%と高い割合となっております。

工事関係車両事故の多くは『〇〇だろう』という「思い込み」や「周囲の安全確認不足」によるものです。

今号では、年度末に向け、工事関係車両による事故事例を紹介しますので、**交通ルール等を再確認するなど、事故防止に向け一丸となって取り組みましょう。**

事故事例① 本線合流時の確認不足による事故



【事故概要】 10tダンプトラックで建設発生土を運搬中、バイパス本線との合流部において、本線を走行していた一般車両と接触した。

【主な要因】 バイパス本線に合流する際の車線変更において、10tダンプトラック運転手による右後方確認が不十分だった。

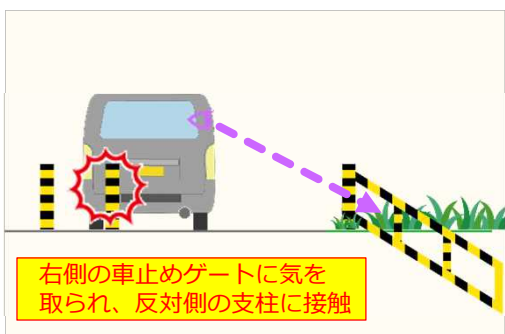
事故事例② 通行路の視認不足による事故



【事故概要】 10tダンプトラックにてトンネルズリ仮置き場に戻る途中、側溝に脱輪し、道路構造物基礎などに衝突した。

【主な要因】 10tダンプトラック運転手の注意力不足によるハンドル操作ミス。

事故事例③ 周囲の確認不足による事故



【事故概要】 堤防天端道路にバックで進入した際、車止め支柱に接触した。

【主な要因】 車止めのゲートに気を取られたことで、反対側に設置されていた支柱の確認が疎かになった。

事故事例④ 前方不注意による事故



【事故概要】 残土処分場から現場へ戻る途中の10tダンプトラックが、自動車専用道路のIC流出ランプ出口交差点で、信号待ちをしていた乗用車2台に後方より追突した。

【主な要因】 10tダンプトラック運転手の慣れからくる気の緩みによる運転操作ミス。

工事関係車両の事故防止には常日頃の点検も大切！

大型車の車輪脱落事故の発生件数が令和元年度は112件と、平成11年からの統計で最大の件数となり、これまでにない危機的な状況となったことから、関係業界の協力のもと「大型車の車輪脱落事故防止キャンペーン（実施期間：令和2年11月1日～令和3年2月28日）」が実施されています。

常日頃から、こまやかな点検を行っていただければ、車輪脱落だけではなく、運転中の車両トラブルの多くは回避できます。大型車に限らず、工事関係車両全般について日頃の点検をしっかりと行い、事故防止に努めましょう。

注意すべき4つのポイント

規定のトルクで 確実な締め付け

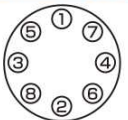
規定の締め付けトルク



締め付け順序

8本ボルトの場合

10本ボルトの場合



タイヤ交換後、 50~100km走行後に しっかり増し締め

ねじの締め付け方向を
確かめて締め付けます



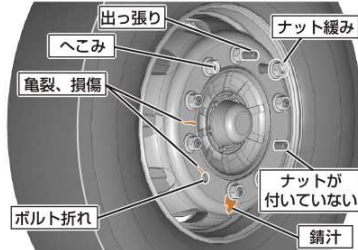
JIS方式(球面座)ダブルタイヤの場合

- ①アウターナットを緩めます。
- ②インナーナットを締め付けます。
- ③アウターナットを締め付けます。



この図は右側タイヤの場合です。

1日1回運転前に 目で見て、 さわって点検



ホイールに適合した ボルト・ナットが しっかり確認



JIS方式(球面座) 6穴・8穴

ホイール	スチールからアルミに置き替え	アルミからスチールに置き替え
フロント	アルミ用のナットに交換(※)	スチール用のナットに交換(※)
リヤ(ダブルタイヤ)	ホイールボルト、インナーナットをアルミ用に交換	ホイールボルト、インナーナットをスチール用に交換

※日野車は、ナットに加え、それぞれ専用のホイールボルトに交換します。

ISO方式/新・ISO方式(平面座) 8穴・10穴

ホイール	スチールからアルミに置き替え	アルミからスチールに置き替え
フロント	ホイールボルトをアルミ用に交換(ホイールナットは共用品)	ホイールボルトをスチール用に交換(ホイールナットは共用品)
リヤ		



左後輪は要注意！

車輪脱落の事例は左後輪に集中しています。特に左後輪の点検は重点的に行いましょう！

詳しくは国土交通省 自動車点検・整備ページをご覧ください。

<https://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha/tenkenseibi/tenken/t2/t2-1/>



工事関係車両事故を減らすために・・・



- 運搬作業が主たる作業内容となる工事については、**運行ルートに潜む危険ポイント等について、工事関係者全員に周知**し、注意喚起を促しましょう。
- 過積載は、道路に大きなダメージを与えるだけでなく、制動距離が長くなったり、カーブ区間での横転、下り坂でのスピード超過など、大きな事故に繋がる可能性があります。**過積載は絶対にやめましょう。**
- 工事関係車両は、一般的な乗用車に比べて走行距離が多くなりがちです。**こまめに車両の点検を行い**、異常があれば使用を停止しましょう。
- ドライバーが疲労状態にある時は、ハンドルやブレーキ操作が雑になる、見落としや見誤りが増える、判断力の低下、反応・動作が遅れることがあります。**疲労を感じたら無理をせず、早めの休憩を心がけましょう。**また、**受注者は運行管理者に管理を徹底させましょう。**
- 慣れた道や通行車両が少ない道、単調な道では、集中力や注意力が低下しやすくなりますが、こういった状態であることをドライバー自身は気付きにくいものです。車間距離が短くなっている、車線からはみ出している、想定よりもスピードを出しているなどの**兆候を自分自身で把握**することが大切です。

無事故で年度末を締めくくりましょう！



年度末は完工時期を迎える工事が多く、工事の輻輳による事故の危険性が高まります。また、積雪や凍結等冬期特有の事故対策も必要です。さらに、今期は新型コロナウイルスへの感染予防対策も求められ、注意力の散漫が懸念されます。

今一度、ひとりひとりが気を引き締め、安全対策を徹底し、事故を防止しましょう。